

## 道北地域の景気の基調判断を据え置きました（11月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、11月17日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を据え置き、「一部で持ち直しの動きがみられている」としました。先月（「東日本大震災の影響による下押し圧力が弱まる中で、持ち直しの動きがみられている」）と表現は少し異なりますが、震災後大きく落ち込んだ観光・自動車販売で持ち直しの動きが続いていることを評価したものであり、基調判断は据え置きです。基調判断の据え置きは、前月に続き2か月連続となります。9月も観光は緩やかながら持ち直しの動きが続きました。道北4地区（ウトロ温泉地区、網走・温根湯温泉地区、層雲峡・白金温泉地区、利尻島地区）における宿泊客数（国際観光旅館連盟北海道支部調べ）は、震災後5月には18.5%まで減少しましたが、9月は3.3%と前年比微減程度にまで回復しました。自動車販売も、震災直後の4月は前年比で6割以上も減少しましたが、9月はほぼ前年並み（3.0%）にまで回復しました。こうした持ち直しの動きは、10月も続いています。このほか、農業では米が作況・相場とも良好であるほか、漁業では主力の秋鮭、ほたての水揚げ数量は減少しているものの相場の上昇から水揚げ額は前年を上回るなど、第一次産業は総じて前年に比較して好調な動きとなっています。

一方で、9月の百貨店・スーパー等大型店の売上高は、台風の影響もみられる中、衣料品や家電製品（薄型TV）の減少等から前年比減少幅が拡大しました。公共投資も減少基調が続いています。この間、株安や円高、海外景気の減速等日本経済を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。道北地域には自動車やそれに関連する産業（鉄鋼、化学等）がほとんどない分、自動車がばん回生産で増産する局面での回復力は全道や全国に比較し見劣りしていましたが、逆にタイの洪水等による製造業の生産・収益面への直接の悪影響はみられていません。しかし、外部環境の悪化は消費マインドを悪化させる可能性がありますし、円高は国内外の観光客を問わず、海外旅行の魅力を相対的に高め、北海道の観光にとっては不利に働きます。こうしたこともあって、先行き不透明感は引続き強い状況です。

個別の動きについては、下記の通りです。

個人消費および観光は、一部で持ち直しの動きがみられています。

9月の百貨店・スーパー等主要大型店の売上高は、台風の影響もみられる中、衣料品や家電製品（薄型TV）の減少等から前年を下回りました（前年比<同旭川地域>：4.8%<4.6%>）。前年比4.8%の減少は、2009年4月（5.2%）以来2年5か月振りです。

9月の新車登録台数（含む軽乗用車）は、持ち直し傾向が続いており、前年比減少幅は一段と縮小しました（前年比：3.0%、8月同15.2%、4月同61.4%）。10月は昨年が駆け込み需要の反動から大きく落ち込んだことありますが、+19.8%と、2010

年9月以来13か月振りに前年を上回りました。タイの洪水の影響（自動車の増産ペースの鈍化、カーナビの品不足に伴う納車の遅れ）は懸念されますが、受注の好調は10月以降も続いており、持ち直しの基調は不変と判断しています。

9月の道北4地区（ウトロ温泉地区、網走・温根湯温泉地区、層雲峡・白金温泉地区、利尻島地区。国際観光旅館連盟北海道支部調べ）における宿泊客数は、3.3%と前年比微減程度にまで回復しました（5月 18.5% 6月 8.7% 7月 18.1% 8月 3.9%）。9月の空港（旭川、稚内、女満別、紋別）利用客数は、機材小型化に伴う供給座席数減少の影響もあって（9月の旭川 東京便の供給座席数は、前年比 25.2%）、引続き前年を下回った（前年比： 12.3% < 旭川空港 22.5% >）ものの、減少幅は震災以降、6か月連続で縮小しました（3月 28.2% 4月 24.9% 5月 23.1% 6月 21.3% 7月 20.6% 8月 15.9% 9月 12.3%）。旭川空港については、先行きスカイマークエアラインの成田便就航（10/30日）や韓国との冬期定期便再開（12/17日から）の効果に注目しています。9月の旭山動物園入園者数は、17.8%と、22年度中（前年度比： 16.3%）並みの減少となりました（なお、今年と昨年で夏期開園の終了時期が異なる < 2011年：11月3日、2010年：10月17日 > ため、10、11月の評価は両者を合算して行う予定です）。

このように、観光は9月も全体としては引続き持ち直しており、10月も宿泊客数（1.2%）、空港利用客数（5.7%）の減少幅は一段と縮小するなど、持ち直し基調が続いています。ただし、先行き、外部環境の悪化（円高や世界経済減速、タイの洪水による生産面への影響）が消費マインドを冷やしかねないことや旧正月にかけて存在感が高まる中国人について、旭川空港における中国からの国際チャーター便再開の目途がまだ立っていないことを不安視する声も一部で聞かれています。

公共投資は減少基調が続いています。9月の公共工事請負金額は上川・宗谷総合振興局では前年を上回ったものの、オホーツク総合振興局管内で前年を下回り、全体でも前年を下回りました（前年比： 4.0%、2011/7～9月 2.5%）。

第一次産業（農業および漁業）は、地域や品目によってばらつきは大きいものの、道北地域全体としては総じて好調であると評価しています（もっとも、市況の高騰は地場食品加工業にとってはマイナスであることには留意が必要です）。

10月15日現在の農作物の生育状況を見ると、降雨の影響から水稻の収穫作業は、平年より遅れて終了しました。また、畑作も、馬鈴しょ、たまねぎ、とうもろこしの収穫作業が平年より遅れて終了したほか、大豆、小豆の収穫作業が、平年より遅れています。畑作は、6月のオホーツクにおけるひょうや9月の台風による大雨の影響が一部でみられています。一方、水稻は作況がよかった（上川：107、前年は97 < 農林水産省 >）上に、相場も前年を大きく上回っており（例えば、平成23年産の北海道産ななつぼしの相対取引価格 < 平成23年9月時点 > は、13,823円/玄米60kg、前年同月比+20% < 農林

水産省「米穀の取引に関する報告」> ) 良好な環境にあります。

9月のオホーツク漁業(稚内、枝幸、網走、紋別)をみると、数量は減少しましたが、金額は、主力の秋鮭とほたての単価上昇を主因に、前年を上回りました(数量前年比: 20.1%、金額前年比: +11.3%、2011/7~9月数量前年比: 20.0%、金額前年比: +12.1%)。10月も数量は減少したものの、金額は増加しました(数量前年比: 12.7%、金額前年比: +14.8%)。

雇用環境は、一部で改善の動きがみられています。9月の常用新規求人数は、稚内・網走地区で前年を下回ったものの、旭川・北見地区で前年を上回り、全体でも前年を上回りました(4地区合計前年同月比: +8.3% <旭川地区+6.7% >、2011/7~9月+7.1% <同+6.8% >)。9月の有効求人倍率(常用)は、網走地区で前年と同一となりましたが、その他の地区では前年を上回りました。

住宅投資は、駆け込み需要の反動がみられています。9月の居住用建築確認申請(床面積)は、住宅エコポイントの対象期間終了(2011年7月31日)前の駆け込み需要の反動から2か月連続で前年を下回りました。ただし、8月(24.3%)に比べ、前年比減少幅は大幅に縮小しました(前年比: 2.2%、2011/7~9月+31.8%)。住宅投資は、低金利が引続き下支え要因となっています。

製造業においては強弱まちまちの動きとなっています。木材・木製品の出荷が増加しました。一方、電子部品関連では需要構造の変化(売れ筋商品の変化)に伴う需要減少から生産減少が続いています。この間、紙・パルプや普通合板でみられた震災特需は次第に剥落しています。

道産米が快進撃を続けています。23年産の道産米は、収量・品質ともよく、成約も順調とのことです。期待の「ゆめぴりか」は、昨年はあまり道外に出回らなかったこともあって、東京での知名度はいま一つであると感じていましたが、今年は出荷量も増え、全国でブランド浸透が進むことが期待されます。上川農業試験場が生み出した「きらら397」や「ゆめぴりか」をはじめ、北海道は今や、全国でもトップ・クラスの良食米の産地となっています。こうした事実が知られるにつれ、北海道米のブランド力は着実に高まっていく可能性が大きいとみており、今後の楽しみです。

2011年11月17日

荒木 光二郎